

(品目別需給編)

1 小麦

(1)国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2018/19 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・前月に比べ、豪州、ロシア等で下方修正され、前年度を下回る見込み。

消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・前月に比べ、米国で下方修正されたものの、前年度を上回る見込み。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・前月に比べ、豪州での生産減による輸出余力の低下等から下方修正された。

・前年に比べ、米国等で増加もロシア等で減少し、前年度を下回る見込み。

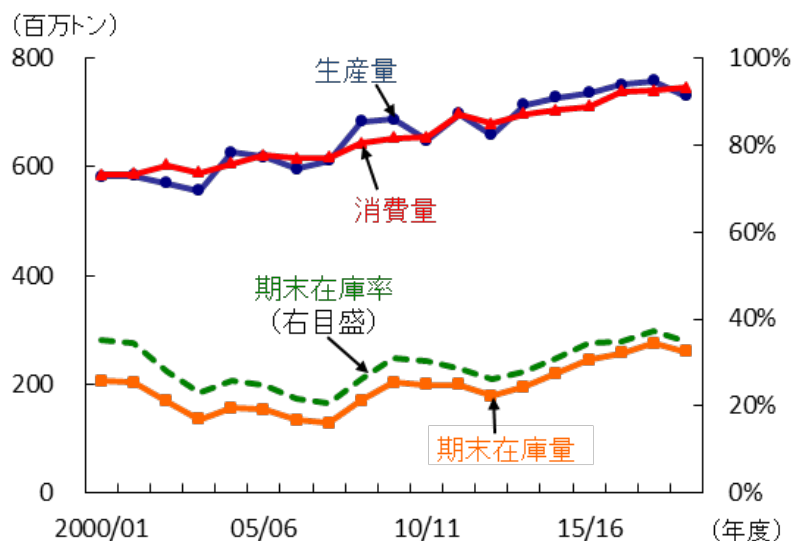
期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

◎世界の小麦需給

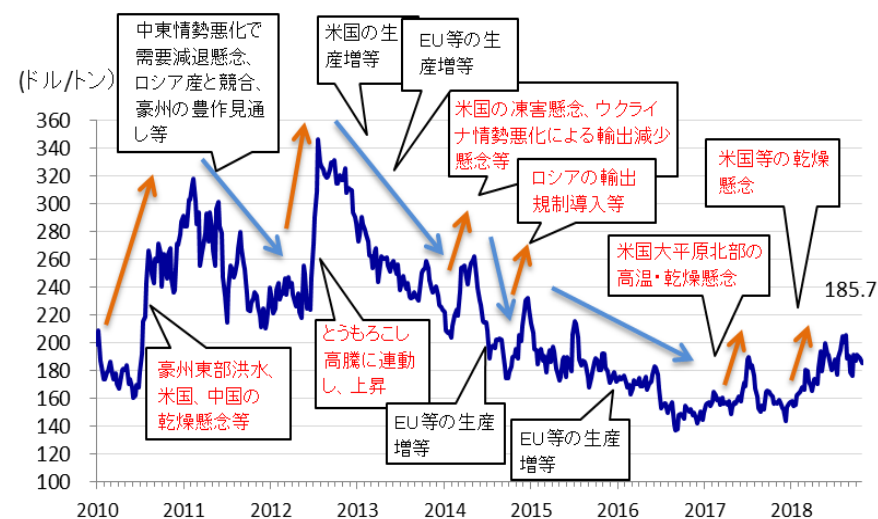
(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	752.1	758.7	730.9	▲ 2.1	▲ 3.7
消費量	739.2	741.2	745.6	▲ 0.5	0.6
うち飼料用	147.1	144.5	140.3	▲ 0.5	▲ 2.9
輸出量	183.4	181.3	180.4	▲ 1.0	▲ 0.5
輸入量	179.1	179.3	177.8	▲ 1.3	▲ 0.9
期末在庫量	257.3	274.9	260.2	▲ 1.1	▲ 5.3
期末在庫率	34.8%	37.1%	34.9%	▲ 0.1	▲ 2.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」(11 October 2018)



注：USDA「PS&D」(2018.10.11)をもとに農林水産省で作成。



注：シカゴ商品取引所による2018年10月26日までの毎週金曜日の期近価格である。

(3) 国別の小麦の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】2018/19年度の生産量は、麦類最終生産高推定によると、冬小麦が32.2百万トン、春小麦19.1百万トンの51.3百万トンと前月から0.2百万トン上方修正され、2017/18年度より8.3%増加する見込み。種類別には、冬小麦が6.7%減、春小麦が50.0%増、デュラム小麦が41.1%増である。

2019/20年度の冬小麦は、10月28日時点で、作付進捗率が78%と前年度(83%)を下回っているものの、発芽率は、前年度並の63%となっている。

【需要動向】米国の史上最高のとうもろこしの供給(期首在庫量等を含む)見通しから、小麦の飼料用需要は前月に比べ0.3百万トン下方修正された。消費量全体は、飼料用需要の減少により下方修正されたものの、前年度を上回る見通し。

< カナダ >

【生育・生産状況】カナダ農務省(AAFC)10月報告によると、生産量は前月に比べ2.0百万トン上方修正され31.0百万となり、前年度を3.4%上回る見込み。

本年度は、例年を下回る降水量で単収が低下するものの、作付面積が増加した。

主要産地の春小麦の収穫進捗率は、10月第4週末の各州政府報告によると、寒冷湿潤型の天候で遅れていたサスカチュワン州、アルバータ州で、天候の回復により、それぞれ92%、81.6%となった。マニトバ州でも乾燥型の天候で収穫が進み、春小麦の収穫進捗率は99%となった。

【貿易情報・その他】AAFC10月報告によると、輸出量は、豪州やロシア等と比較し輸出余力があるため、前月に比べ0.4百万トン上方修正され、前年度を3.4%上回る22.6百万トンとなる見込み。

小麦－米国 (冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	62.8	47.4	51.3	0.2	8.3
消費量	31.9	29.3	31.1	▲ 0.3	6.0
うち飼料用	4.4	1.4	3.0	▲ 0.3	119.9
輸 出 量	28.6	24.5	27.9	-	13.8
輸 入 量	3.2	4.3	3.8	0.1	▲ 11.0
期末在庫量	32.1	29.9	26.0	0.6	▲ 13.0
期末在庫率	53.1%	55.5%	44.1%	1.2	▲ 11.4

(参考)

収穫面積(百万ha)	17.75	15.19	16.03	0.02	5.5
単収(t/ha)	3.54	3.12	3.20	0.01	2.6

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(11 October 2018)

小麦－カナダ (春小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	32.1	30.0	31.5 (31.0)	-	5.1
消費量	10.8	9.2	9.0 (9.1)	-	▲ 1.7
うち飼料用	5.8	4.3	4.0 (4.6)	-	▲ 6.1
輸 出 量	20.2	22.0	24.0 (22.6)	-	9.3
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.1)	-	-
期末在庫量	6.9	6.2	5.1 (5.6)	-	▲ 17.0
期末在庫率	22.2%	19.9%	15.5% (17.7%)	-	▲ 4.3

(参考)

収穫面積(百万ha)	8.98	8.98	9.80 (9.83)	-	9.1
単収(t/ha)	3.58	3.34	3.21 (3.16)	-	▲ 3.9

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 October 2018)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(19 October 2018)

< 豪州 >

【生育・生産状況】生産量は、米国農務省(USDA)によれば、乾燥と霜害の影響による単収の低下により、前月に比べ1.5百万トン下方修正され、2007/08年度以来の低水準の18.5百万トンとなる見込み。豪州西部のウエスタンオーストラリア州では作柄は良好であるものの、主にニューサウスウェールズ州やクイーンズランド州東部では、作付時期から乾燥天候が続き、前年度に比べ収穫面積・単収が減少した。

豪州農業資源経済科学局(ABARES)の9月報告では、生産量は前年度を10.1%下回る19.1百万トンと見込まれた。更に10月25日のABARESの週報では、サウスオーストラリア州やビクトリア州での大幅な生産減から、同報告から更に13%程度減少すると見込まれている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、ニューサウスウェールズ州、クイーンズランド州では、乾燥天候により小麦と牧草が生産減となったため、飼料の需要が高まり本来ウエスタンオーストラリア州から輸出される小麦が両地域に供給された。このため、輸出量は前月に比べ1.0百万トン下方修正され、13.0百万トンとなる見込み。

なお、同国産小麦の輸出量に占めるウエスタンオーストラリア州のシェアは40%から70%に拡大する見込み。

< EU >

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によれば、2018/19年度の実生産量は137.5百万トンと前月からの改訂はない。北部ヨーロッパ(英国、オランダ、ドイツ、ポーランド等)では降雨が非常に少なかったため、前年度に比べ9.3%の減少となった。

【需要動向】飼料用需要は、他の穀物に比べ小麦価格が相対的に高く、とうもろこし等へ需要がシフトするため、前年度より5.0百万トン減少する見込み。

【貿易情報・その他】欧州委員会によれば、輸出量(2018年7月~10月)は、5.5百万トンと前年度より25%減少している。USDAによると、EUの生産減のため、アジア、アフリカ市場ではロシアのシェアが増加している。

小麦—豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	31.8	21.3	18.5 (19.1)	▲ 1.5	▲ 13.1
消費量	7.5	7.3	7.7 (7.4)	0.1	5.8
うち飼料用	4.0	3.8	4.2 (4.0)	0.1	10.5
輸 出 量	22.6	14.5	13.0 (13.5)	▲ 1.0	▲ 10.3
輸 入 量	0.1	0.2	0.2 (0.2)	-	-
期末在庫量	5.7	5.4	3.4 (3.9)	▲ 0.6	▲ 38.0
期末在庫率	19.0%	24.8%	16.2% (18.7%)	▲ 2.1	▲ 8.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)※	12.19	12.25	11.00 (11.02)	-	▲ 10.2
単収(t/ha)	2.61	1.74	1.68 (1.73)	▲ 0.14	▲ 3.4

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 October 2018)
IGC 「Grain Market Report」(27 September 2018)

小麦—EU (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はEU	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	145.4	151.7	137.5 (137.3)	-	▲ 9.3
消費量	128.0	130.4	125.0 (128.5)	-	▲ 4.1
うち飼料用	56.0	58.0	53.0 (55.2)	-	▲ 8.6
輸 出 量	27.4	23.3	23.0 (21.2)	-	▲ 1.2
輸 入 量	5.3	5.8	6.0 (6.1)	-	3.1
期末在庫量	10.7	14.6	10.1 (14.7)	▲ 0.0	▲ 30.9
期末在庫率	6.9%	9.5%	6.8% (9.8%)	▲ 0.0	▲ 2.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	27.23	26.32	25.63 (25.41)	-	▲ 2.6
単収(t/ha)	5.34	5.76	5.36 (5.4)	-	▲ 6.9

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
USDA 「PS&D」((11 October 2018)
EU 「Balance Sheets For Cereals and Oilseeds and Rice」(27 September 2018)

< 中国 >

【生育・生産状況】2019/20年度の冬小麦は、10月上旬現在、西北と華北地区で播種が開始され、一部はすでに出苗期に入っている。9月下旬以降、河南、山東省の一部で降雨が少なく土壌水分が減少しており、生育への影響が懸念されている。

【貿易情報・その他】物資備蓄局等によると、生産農家の所得保障等のための2018年度産小麦の買上げ数量は9月末時点で50.2百万トンとなった。内訳は河南省12.1百万トン、江蘇省10.2百万トン、山東省9.3百万トン等。

なお、湖北、安徽、河南省等の産地で低品質の小麦が、農家の自家消費向けになったこと等から前年度と比較して買上げ数量が21.9百万トン減少した。

また、今期の国家備蓄向けの小麦の買い上げが終了し、買付け数量は300万トン程度と大幅に減少する見通し。

< ロシア >

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によると、収穫はウラル、シベリア地域を除き終了した。両地域の収穫進捗率は、10月8日時点でそれぞれ90%、82%。

生産量は、ウラル、シベリアの春小麦地域で単収が低下することから、前月に比べ、1.0百万トン下方修正され70.0百万トンの見込み。なお、ロシア農業省の収穫速報によれば、10月29日時点の小麦収穫量(品質調整前)は、73.2百万トン(前年度同期87.8百万トン)となっている。

【貿易情報・その他】輸出量の前月からの改訂は行われていない。2018/19年度は、ロシアの小麦生産量が史上第3番目の豊作であることや、十分な期首在庫から価格競争力があるため、輸出量はロシア史上第2番目となり、引き続き世界の第一位を占める見込み。

連邦税関庁によれば、10月11日時点(2018年7月～)の小麦輸出量はロシア史上第1位となった前年同日比36.7%増の14.4百万トン。

小麦－中国 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	128.9	129.8	128.0 (122.5)	-	▲ 1.4
消費量	118.5	117.0	122.0 (119.4)	-	▲ 4.3
うち飼料用	16.5	13.5	17.0 (14.0)	-	▲ 25.9
輸 出 量	0.8	1.0	1.2 (1.1)	-	▲ 20.0
輸 入 量	4.4	4.0	4.5 (4.3)	-	▲ 12.5
期末在庫量	111.1	126.8	136.1 (116.2)	-	▲ 7.3
期末在庫率	93.1%	107.5%	110.5% (96.4%)	-	▲ 3.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.19	23.99	23.70 (23.83)	-	▲ 1.2
単収(t/ha)	5.33	5.41	5.40 (5.14)	-	▲ 0.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 October 2018)
IGC 「Grain Market Report」(27 September 2018)

小麦－ロシア (主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	72.5	85.0	70.0 (68.5)	▲ 1.0	▲ 17.6
消費量	40.0	44.0	40.5 (41.7)	-	▲ 8.0
うち飼料用	17.0	21.0	18.0 (18.0)	-	▲ 14.3
輸 出 量	27.8	41.4	35.0 (31.7)	-	▲ 15.5
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.3)	-	▲ 6.4
期末在庫量	10.8	10.9	5.9 (10.5)	▲ 1.0	▲ 46.0
期末在庫率	16.0%	12.7%	7.8% (14.3%)	▲ 1.3	▲ 5.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	27.00	27.34	26.00 (26.10)	-	▲ 4.9
単収(t/ha)	2.69	3.11	2.69 (2.62)	▲ 0.04	▲ 13.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 October 2018)
IGC 「Grain Market Report」(27 September 2018)

2 とうもろこし

(1) 国際的な需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し>

2018/19 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

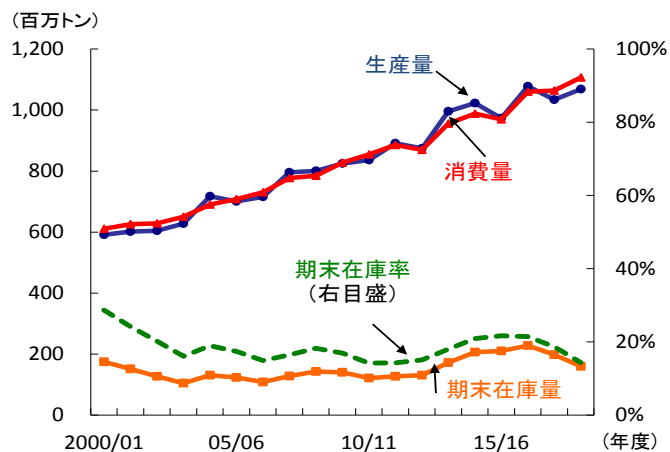
・前月に比べ、米国での単収低下予測により下方修正された。

消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・前月に比べ、米国での輸出量増加により上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

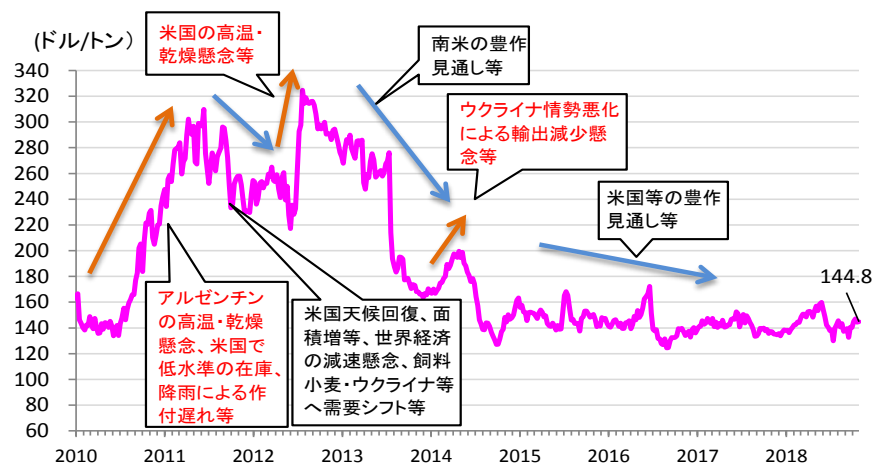


資料: USDA 「PS&D」 (2018. 9. 12) をもとに農林水産省で作成。

(単位: 百万トン)

年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	1,078.3	1,034.2	1,068.3	▲ 0.7	1.9
消費量	1,060.5	1,063.8	1,107.2	1.1	2.1
うち飼料用	633.1	649.4	676.9	0.0	2.6
輸出量	160.1	147.1	163.0	1.3	4.6
期末在庫量	227.8	198.2	159.4	2.3	▲ 18.3
期末在庫率	21.5%	18.6%	14.4%	0.2	▲ 4.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (11 October 2018)



注: シカゴ商品取引所による 2018 年 10 月 26 日までの毎週金曜日の期近価格である。

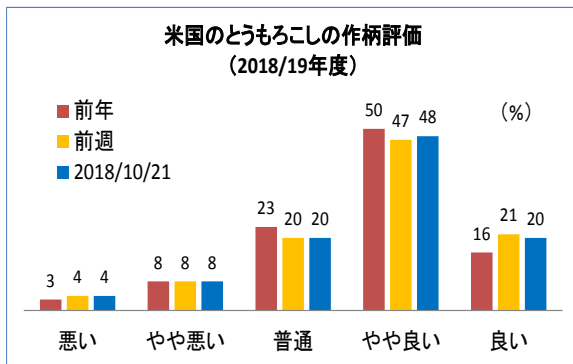
(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 >

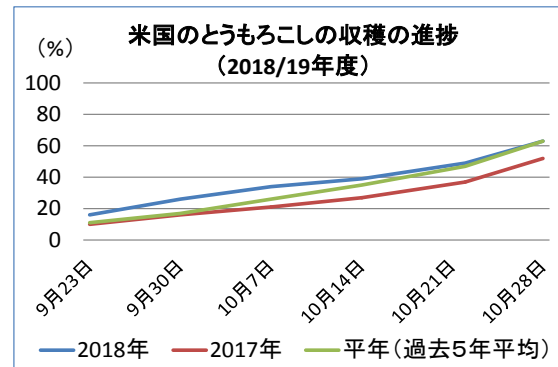
【生育・生産状況】生産量は、米国農務省（USDA）により単収予測が下方修正されたことから、前月予測を下回るものの、史上二番目の375.4百万トンの見込み。10月28日時点で、主要産地の収穫率は63%（過去5年平均は63%）である。10月21日時点の作柄（良いとやや良いを足したものは、前年を上回っている）。

【需要状況】ソルガムの生産量が上方修正され、とうもろこしの生産量が下方修正されたことから、飼料需要がソルガムにシフトしたため、消費量が下方修正された。

【貿易情報・その他】輸出货量は、価格競争力のあるため、USDA 予測では、前月より更に上方修正され、62.9百万トンの見込み。



資料：USDA Crop progress 2018. 10. 21



資料：USDA Crop progress 2018. 10. 28

とうもろこしー米国

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	384.8	371.0	375.4	▲ 1.3	1.2
消費量	313.8	313.8	322.1	▲ 0.6	2.6
うち飼料用	138.9	134.7	141.0	▲ 0.6	4.7
エタノール用等	138.0	142.3	143.5	-	0.9
輸 出 量	58.3	61.9	62.9	1.9	1.5
輸 入 量	1.5	0.9	1.3	-	38.0
期末在庫量	58.3	54.4	46.1	1.0	▲ 15.3
期末在庫率	15.7%	14.5%	12.0%	0.2	▲ 2.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	35.11	33.47	33.09	-	▲ 1.1
単収(t/ha)	10.96	11.08	11.34	▲ 0.04	2.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 October 2018)

とうもろこしーアルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	41.0	32.0	41.0 (48.3)	-	28.1
消費量	11.2	11.9	12.4 (20.1)	-	4.2
うち飼料用	7.5	8.0	8.5 (15.5)	-	6.3
輸 出 量	26.0	23.0	27.0 (29.0)	-	17.4
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	5.3	2.4	4.0 (5.8)	-	67.2
期末在庫率	14.2%	6.8%	10.1% (11.6%)	-	3.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	4.90	5.20	5.00 (6.45)	-	▲ 3.8
単収(t/ha)	8.37	6.15	8.20 (7.49)	-	33.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 October 2018)
IGC「Grain Market Report」(27 September 2018)

< ブラジル >

【生育・生産状況】 2018/19年度については、8月から一部地域で夏とうもろこしの作付けが始まっている。米国農務省（USDA）によると、主産地のパラナ州では、10月15日現在で8割以上作付けが終わっている。降雨に恵まれ、土壌水分が豊富なことから、作付けが進展している。

ブラジル食料供給公社（Conab）によると、2018/19年度とうもろこし（夏とうもろこし、冬とうもろこしの合計）の栽培面積は、16.6百万ha～16.8百万ha（前年度比0.1%減～1.2%増）、生産量は、89.7百万トン～91.1百万トン（前年度比11.1%～12.7%増）の見込みである。（P.18 ブラジルのクロープカレンダー参照）

【貿易情報・その他】2018年1月からの貿易統計によると、ブラジルのとうもろこしの輸出先は、イラン、スペイン、ベトナム等であり、中でもイランが最も多い。

< 中国 >

【生育・生産状況】主産地である東北地方では、気温が土壌水分ともに生育に適した状態であり、成熟は順調であった。国家糧油情報センターの8月予測によると、栽培面積は前年と比べ、0.32%増加の35.6百万ヘクタール、生産量は0.28%増加の216.5百万トンの予想である。

【需要状況】国家備蓄とうもろこしの競売により、市場供給が十分な状態が続いているため、国内価格は比較的安定している。

【貿易情報・その他】最新の中国税関統計によると、9月単月の輸入量は4万トンで前年より大幅に減少したものの、2018年1～9月とうもろこし累計輸入量は、291万トンで、前年同期比27.7%増となった。

とうもろこし—ブラジル

（大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが7割を占め、夏とうもろこしは3割）

（単位：百万トン）

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	98.5	82.0	94.5 (93.8)	-	15.2
消費量	60.5	64.5	66.5 (66.3)	-	3.1
うち飼料用	51.0	55.0	56.0 (53.0)	-	1.8
輸 出 量	31.6	22.0	29.0 (30.0)	-	31.8
輸 入 量	0.9	1.0	1.0 (0.5)	-	-
期末在庫量	14.0	10.5	10.5 (6.7)	-	-
期末在庫率	15.2%	12.2%	11.0% (6.9%)	-	▲ 1.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	17.60	16.60	17.50 (17.23)	-	5.4
単収(t/ha)	5.60	4.94	5.40 (5.45)	-	9.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 October 2018)
IGC「Grain Market Report」(27 September 2018)

とうもろこし—中国

（単位：百万トン）

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	219.6	215.9	225.0 (219.9)	-	4.2
消費量	232.0	241.0	251.0 (250.6)	-	4.1
うち飼料用	162.0	167.0	174.0 (155.3)	-	4.2
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	-
輸 入 量	2.5	4.0	5.0 (4.2)	-	25.0
期末在庫量	100.7	79.6	58.5 (162.1)	-	▲ 26.5
期末在庫率	43.4%	33.0%	23.3% (64.7%)	-	▲ 9.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	36.77	35.45	36.50 (35.70)	-	3.0
単収(t/ha)	5.97	6.09	6.16 (6.16)	-	1.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 October 2018)
IGC「Grain Market Report」(27 September 2018)

3 米

(1) 国際的な米需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し>

2018/19 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・前月に比べ、インドで収穫面積の上方修正等により上方修正された。

消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・前月に比べ、インドで消費量の上方修正等により上方修正された。

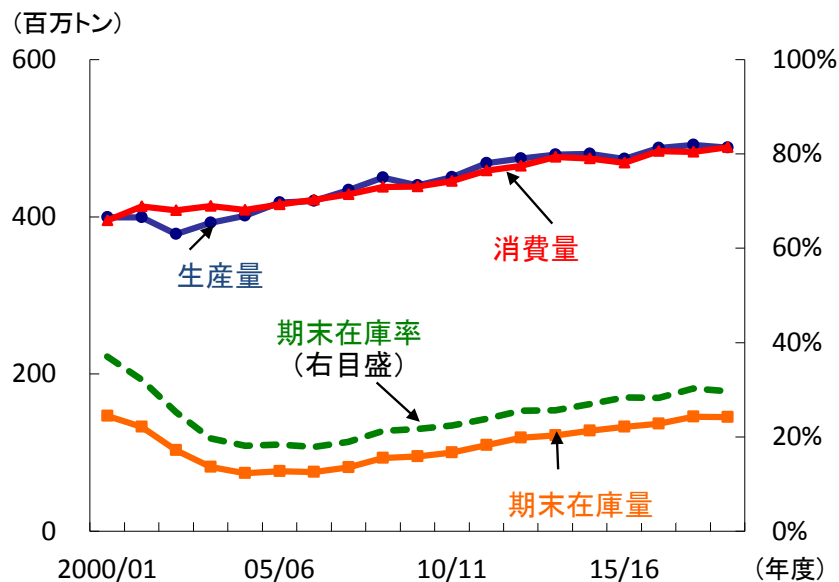
輸出量 前年度比 ↑ 前月比 -

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

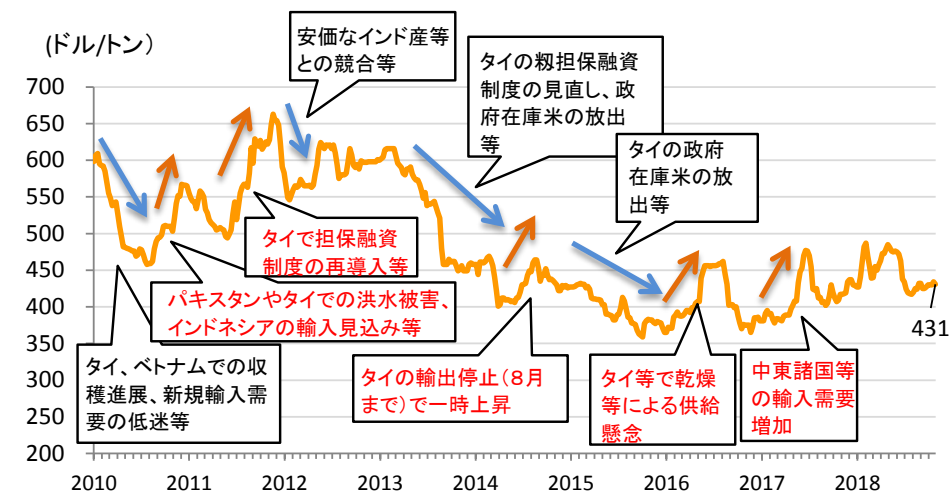
(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	487.4	491.5	487.8	0.6	▲ 0.8
消費量	483.3	482.5	488.5	0.1	1.2
輸出量	47.3	48.2	49.5	-	2.7
輸入量	41.3	48.0	46.7	-	▲ 2.5
期末在庫量	136.9	145.9	145.2	0.8	▲ 0.5
期末在庫率	28.3%	30.2%	29.7%	0.2	▲ 0.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 October 2018)



資料: USDA 「PS&D」(2018.10.11)をもとに農林水産省にて作成



注: タイ国家貿易取引委員会公表による 2018 年 10 月 24 日までの毎週水曜日の
タイうるち精米 100% 2 等

(2) 国別の米の需給動向

< 米国 >

主に中・短粒はカリフォルニア、長粒はミシシッピ沿いで栽培
カリフォルニア州の全米に占める生産シェアは約2割

【生育・生産動向】米国農務省(USDA)によれば、10月28日時点で、長粒種を中心に栽培しているルイジアナでは収穫は終了。

一方、中・短粒種の主産地のカリフォルニア州では収穫は終盤に入っており、収穫率は92%と前年度同期(95%)より遅れている。

USDAによれば、前月と比べ、単収がわずかに下方修正され、その結果、長粒種、中・短粒種とも生産量が下方修正されたものの(長粒種：5.04百万精米トン、中・短粒種：1.90百万精米トン)、前年度比では22.8%増となった。

【貿易情報・その他】輸出量は、前月と比べ変更なし。

10月の精米価格は、ミシシッピ川流域の長粒種(2等4%碎米混入、ガルフ積み)が9月と比較して5ドル/トン下落し、545ドル/トン。

一方、カリフォルニア産中粒種(1等4%碎米混入 精米工場渡し)も9月と比較し53ドル/トン下落し、860ドル/トン。

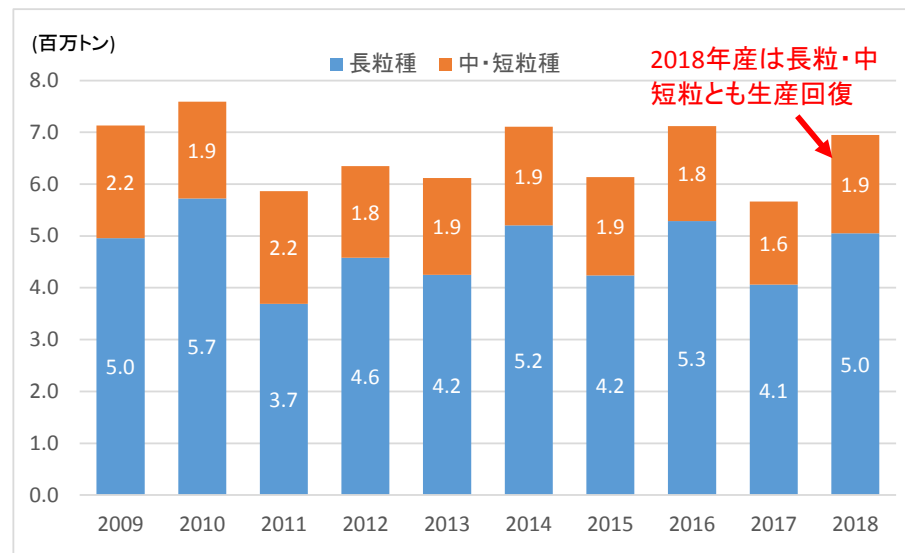
米－米国

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.1	5.7	7.0	▲ 0.02	22.8
消費量	4.2	4.3	4.2	-	▲ 1.4
輸出量	3.7	2.8	3.1	-	12.7
輸入量	0.8	0.9	0.9	-	1.2
期末在庫量	1.5	0.9	1.4	▲ 0.02	50.5
期末在庫率	18.5%	13.2%	19.1%	▲ 0.3	5.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.25	0.96	1.17	-	21.9
単収(もみt/ha)	8.11	8.41	8.45	▲ 0.03	0.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 October 2018)

図 米国の長粒・中短粒別の生産量の推移



資料：USDA「Rice yearbook 2018」(2018.3), WASDE(2018.10)をもとに農林水産省にて作成

< タイ > **夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカを栽培**

【生育・生産動向】タイ政府によれば、雨季作に関し、生産量が前年度比 8.4%増の 26.1 百万トン(粳ベース)の見込みは 7 月以降変わらず。タイ中部では 9 月末には収穫が開始され、北部では 10 月に入り収穫期を迎えた。収穫は順調に進展している。

IGC によれば、米の生産過剰を防ぐため、タイ政府は、乾季作 32 万ヘクタールについて、低利融資と作物保険の充実によりとうもろこしへの転作を奨励。

【貿易情報・その他】タイ米輸出業者協会によれば、2018 年 1~8 月の輸出量は 7.14 百万トンで前年同期比 3.6%減少。フィリピン、インドネシア向け輸出は増加したものの、中国国内の米の流通価格の下落による中国向けの輸出の減少が要因とみられる。

なお、フィリピンでの 9 月の台風による稲作への被害から、フィリピン政府がタイからの輸入割当を承認したことから、今後フィリピン向けの輸出が増加する見込み。

< 中国 > **北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは 3 割程度**

【生育・生産動向】生育状況は、10 月初旬では、一期作稲は、東北地区は収穫期を迎え、西南地区と長江中下流域は概ね乳熟期から成熟期を迎えている。

二期作晩稲については、江南地区、華南中北部では出穂から乳熟期、華南地区では節間伸長から穂ばらみ期を迎えている。

【需要状況】USDA によれば、前月比で消費量が下方修正、期末在庫が上方修正された。

【貿易情報・その他】物資備蓄局等によると、生産農家の所得保障等のための 2018 年産早期インディカ米の買上げ数量は 9 月末時点で 7.8 百万トン。(対前年 1.2 百万トン減)

USDA によれば、ASEAN 諸国から輸入されるもち米の関税の引き上げにより輸入量が下方修正された。1-8 月の輸入量は 202 万トンと前年同期比 24.5%減、一方、1-8 月の輸出量は 118 万トンで前年同期比 64.8%増となっている。

農業農村部の 10 月公表の「農産品供需形勢分析月報」(9 月分)によれば、早期インディカ、晩期インディカ、ジャポニカ米の卸売価格(精米)は、それぞれキログラム当たり 3.82 元、4.08 元、4.20 元で、晩期インディカは前月と同価格であるが、早期インディカ、ジャポニカは前月より下落している。

米-タイ

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	19.2	20.4	21.2 (21.3)	-	4.1
消費量	12.0	11.2	10.2 (10.2)	-	▲ 8.7
輸出量	11.6	10.5	11.0 (11.2)	-	4.8
輸入量	0.3	0.3	0.3 (0.3)	-	-
期末在庫量	4.2	3.2	3.4 (3.5)	-	7.8
期末在庫率	18.0%	14.7%	16.2% (16.4%)	-	1.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	10.25	10.68	11.14 (11.20)	-	4.3
単収(もみt/ha)	2.84	2.89	2.88 (1.90)	-	▲ 0.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 October 2018)
IGC 「Grain Market Report (27 September 2018)」 (単収は精米t/ha)

米-中国

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	145.0	146.0	140.8 (141.8)	-	▲ 3.6
消費量	141.5	142.1	142.5 (146.1)	▲ 1.0	0.3
輸出量	0.8	1.4	1.8 (1.8)	0.1	29.5
輸入量	5.3	5.5	5.0 (5.0)	▲ 0.5	▲ 9.1
期末在庫量	86.5	94.5	96.0 (73.5)	0.9	1.6
期末在庫率	60.8%	65.9%	66.5% (49.7%)	1.0	0.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	30.18	30.18	29.50 (29.45)	-	▲ 2.3
単収(もみt/ha)	6.86	6.91	6.82 (4.81)	-	▲ 1.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 October 2018)
IGC 「Grain Market Report (27 September 2018)」 (単収は精米t/ha)

< インド >

インドでは、雨季をカリフ、乾季をラビと一般的に呼ぶ。北部はカリフ・ラビの二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

【生育・生産動向】インド農業省の第一次作付予測(10月12日)によると、カリフ米の作付面積は、洪水被害から前年度(39.4百万ヘクタール)より減少の38.4百万ヘクタールの見込み。

北部では収穫が始まり、その他の地域では分けつ期から生殖成長期を迎えている。

USDAによれば、インド政府の第1回推計報告(9月26日公表)によりカリフ米の生産量が99.2百万トンとなったことから、2018/19年度の生産量が上方修正された。

【需要状況】USDAによれば、上記報告による生産量の上方修正による需給の緩和から消費量が上方修正された。

【貿易情報・その他】輸出量については、史上最高の1,300万トンは前月と変わらず。

< ベトナム >

北部で二期作、南部で二期作、三期作。主にインディカを栽培

【生育・生産動向】2017/18年度の夏秋作の作付面積は、前年度より2.5%減の205万ヘクタールと減少。そのうち、メコンデルタ等で169万ヘクタールが収穫完了。

単収は5.41トン/ヘクタールと前年度(5.40トン)より増加するものの、作付面積が減少するため、生産量は1,120万トン(粳ベース)と前年度より減少する見込み。

夏秋作の減産見通しを受け、USDAによれば、前月に比べ2017/18年度の生産量が下方修正された。

【貿易情報・その他】価格については、10月の国内卸売価格は上昇傾向に転じた。9月の輸出価格はインディカ精米(破碎米5%混入)が上昇(8月:425→9月:440ドル/トン)。

ベトナムの米輸出公社のVinafood2社は、フィリピンの貿易業者のAgriNurture

Inc社に、2019年から年間200万トン供給するための覚え書きに署名したとの報道がされている。なお、ジェトロによれば、フィリピンで9月の台風による稲作への被害があり、米の価格が上昇したことから、フィリピン政府は民間業者の米輸入に関する手続きを緩和した。

米-インド

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	109.7	112.9	111.0 (113.5)	1.0	▲ 1.7
消費量	95.8	98.7	100.0 (100.6)	1.0	1.4
輸出量	11.8	12.8	13.0 (12.7)	-	1.6
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	20.6	22.0	20.0 (22.9)	-	▲ 9.1
期末在庫率	19.1%	19.7%	17.7% (20.2%)	▲ 0.2	▲ 2.0

(参考)

収穫面積(百万ha)	43.99	43.79	44.00 (44.00)	0.50	0.5
単収(もみt/ha)	3.74	3.87	3.78 (2.57)	▲ 0.01	▲ 2.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(11 October 2018)

IGC 「Grain Market Report (27 September 2018)」 (単収は精米t/ha)

米-ベトナム

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.4	28.5	29.1 (28.6)	-	2.1
消費量	22.0	21.8	22.1 (22.3)	▲ 0.3	1.4
輸出量	6.5	7.0	7.0 (6.9)	-	-
輸入量	0.5	0.4	0.4 (0.5)	-	-
期末在庫量	1.0	1.0	1.4 (2.0)	0.1	35.6
期末在庫率	3.4%	3.6%	4.8% (6.8%)	0.5	1.2

(参考)

収穫面積(百万ha)	7.71	7.69	7.76 (7.73)	-	0.9
単収(もみt/ha)	5.68	5.92	5.99 (3.70)	-	1.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(11 October 2018)

IGC 「Grain Market Report (27 September 2018)」 (単収は精米t/ha)

(参考1) 南米の米生産（ブラジル、ウルグアイ等で長粒種を主に生産）

<需給>

- ・ブラジルは、世界9位の米生産国でアジア以外では最大。（表1、2参照）。南部のリオグランデ・ド・スル州が主産地で長粒種を栽培。米は、フェジョン豆とともに主食。輸出量は、2018/19年度は南米で1位（図1）。輸出先は、他の南米諸国や大西洋対岸のアフリカ諸国向けが中心。
- ・他にアルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイ、ガイアナ等でも生産・輸出。各国とも生産は長粒種が中心で、一部で短粒種も栽培している模様。
- ・国や地域によって異なるが、ブラジルやウルグアイでは、9月～11月頃作付けし、翌年収穫期を迎える。

<価格>

最近のブラジル産米（5%砕米混入）のFOB価格は、アルゼンチン、ウルグアイ産米（5%砕米混入）を下回る価格で推移（図2）

南米一表1：ブラジルの需給表（USDA IGC）

精米ベースで生産量約8百万トン

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)	
生産量	8.4	8.2	8.2 (8.0)	0.1	▲ 0.6	
消費量	8.0	8.0	8.0 (8.0)	▲ 0.0	-	
輸出量	0.8	0.9	0.9 (0.8)	0.1	▲ 5.6	
輸入量	0.6	0.7	0.7 (0.7)	-	▲ 4.4	
期末在庫量	0.5	0.4	0.4 (0.3)	0.0	▲ 14.0	
期末在庫率	5.4%	4.8%	4.2% (3.4%)		▲ 0.6	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	1.98	1.97	1.96 (1.93)	-	▲ 0.5	
単収(もみt/ha)	6.22	6.12	6.12 (4.17)	0.10	-	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 October 2018)
IGC「Grain Market Report (27 September 2018)」(単収は精米t/ha)

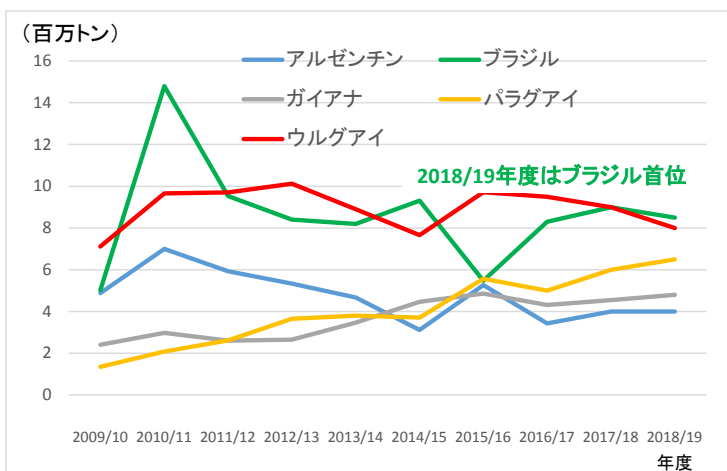
南米一表2：

世界の米生産上位10か国
(2018/19年度)

順位	国	生産量 (百万精米トン)
1	中国	140.8
2	インド	111.0
3	インドネシア	37.3
4	バングラデシュ	34.4
5	ベトナム	29.1
6	タイ	21.2
7	ミャンマー	13.1
8	フィリピン	12.2
9	ブラジル	8.2
10	日本	7.7

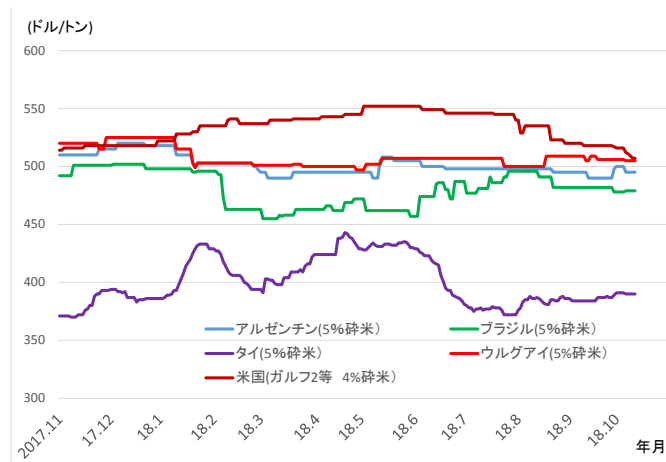
資料：USDA「PS&D」(2018.10)

南米一図1 南米主要生産国の輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2018.10)をもとに農林水産省にて作成

南米一図2 南米と他の主要輸出国の輸出価格の推移



- 14 - 資料：IGC(国際穀物理事会)資料をもとに農林水産省にて作成

をもとに農林水産省にて作成

(参考2) エジプト・中近東の米生産（エジプト、トルコで主に中・短粒種、イランで主に長粒種を栽培）

<需給>

・北アフリカの米主産国のエジプトは、従来から中・短粒種の生産国・輸出国であったが、ナイル川の水不足のため今年6月から稲作を制限。2018/19年度の生産量は20年ぶりに大幅に減産となり、前年度比35%減の280万トン(精米ベース:米国農務省(USDA)10月予測)。農地は比較的水利用の少ないとうもろこし等へ作付け転換。

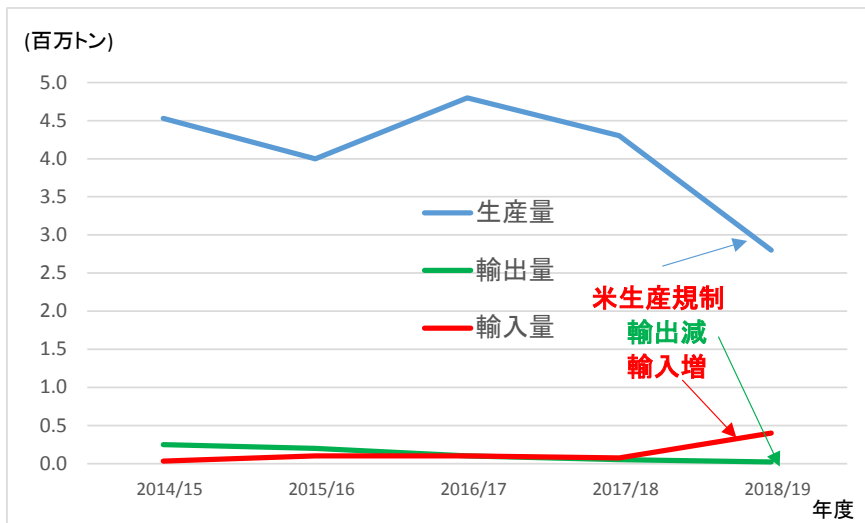
米の輸出は大幅に減少し、不足分はベトナムや米国等から輸入する見込み。エジプト政府によれば輸入目標数量は50万トン。

・一方、中近東では、イラン、トルコ、イラクで米を栽培。種類は、イランでは主に長粒種、トルコでは主に中・短粒種とみられる。イラクでは、2018/19年度は上流の積雪不足によるユーフラテス川の流量の大幅な減少で、前年度比80%減の4万精米トンの見通し。国内生産では不足するため中近東諸国合計で年間、約700万トンを輸入。そのうち、イラン、イラク、サウジは各100万トン以上輸入。

<価格>

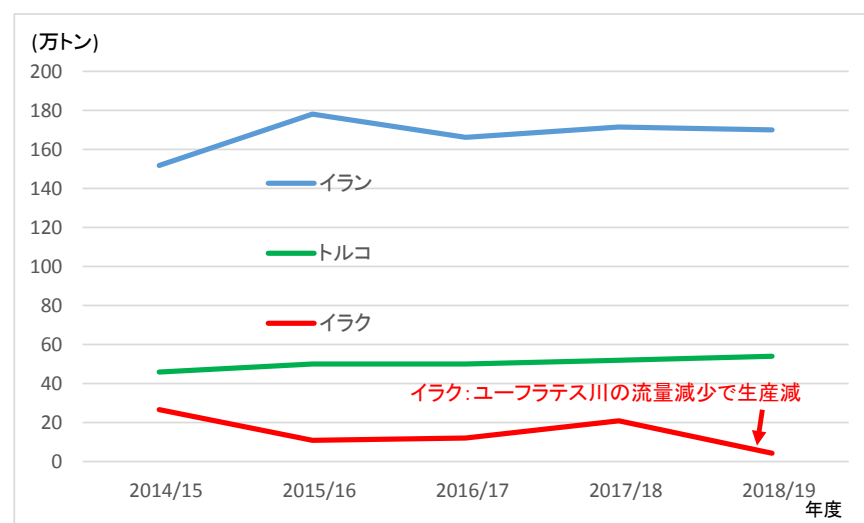
・エジプトでは、農家段階価格は、粳ベースでトン当たり4,600エジプトポンド(257.7米ドル相当)、小売価格は、精米キログラム当たり8~12ポンド(0.45~0.67米ドル相当)。(USDA「Egypt Grain and Feed Update 2018」(2018.9)による)

エジプトー図 エジプトの米生産量・輸出量・輸入量の推移



資料：USDA「PS&D」(2018.10.11)をもとに農林水産省にて作成

中近東ー図 イラン、トルコ、イラクの米生産量の推移



資料：USDA「PS&D」(2018.10.11)をもとに農林水産省にて作成